



【レビュー】

# BackOffice Small Business Serverの正体

## スモールビジネスの救世主になりえるか？

山田 祥平

夫婦2人の家庭が、台所の半分以上を占領するような大型業務用冷蔵庫を購入する。ばかげた話だが、それと似たようなことをしなければならなかったのが今までのサーバー用ソフトウェアだ。しかし、その解決策の1つが発表された。マイクロソフト社から来春までに発売が予定されているSBSは、セットアップや管理を極力簡易化して無駄な機能を省いた製品ということだ。米国ではベータテストがすでに開始されている。このSBSがどのようなニーズに応えるものなのかを検証してみる。

### B A C K O F F I C E S B S

#### ターゲットは管理者のいないスモールオフィス

「BackOffice Small Business Server」(以下SBS)は、マイクロソフト社によるスモールビジネスのためのサーバーソフトウェア統合パッケージだ。同社からは、現状でサーバー用のオペレーティングシステムとしてウィンドウズNTサーバーがあり、それを支援するサーバーソフトウェアがBackOfficeファミリーというグルーピングで提供されている。さらにBackOfficeファミリー製品を1パッケージにまとめたものと

してBackOffice 2.5という製品が存在する。SBSはBackOffice 2.5のコンポーネントや機能を縮小したSOHO向けの製品だ。

狙う市場は、従来オフコンを使っていたような従業員数100人以下の企業だ。マイクロソフト社では、現行のウィンドウズNTサーバーを使っているこうした企業の過半数がSBSのユーザーに該当すると予想しているようだ。

SBSは単純に現行のBackOffice製品を寄せ集めただけのパッケージではない。ネットワーク構築のノウハウを持たないユーザーが、容易に大量のコンポーネントをま

とめてセットアップするための統合インストーラーや、ユーザーの登録、サーバーの管理などを手軽に行えるウェブベースの管理画面などが提供され、個別のツールを使い分けることなくウィザードに従うだけで、日常の運用を可能にする仕掛けが用意されている。

さらに、このパッケージ固有のモジュールとして、FAXサーバー、モデムサーバーが提供されるほか、クライアントの環境設定用フロッピーを作るような機能も用意されている。

マイクロソフト社では、この製品はITマネージャーがきちんといる大企業の部門サーバーではなく、スモールビジネスオフィスに特化した製品として専任の管理者を置く余裕のないような企業にすすめていこうとしているようだ。

ただし、既存製品に比べて半額近いコストで入手できるのだから、ある程度の機能制限を覚悟しなければならない。

まずウィンドウズNTサーバーはシングルサーバー専用であり、他のドメインと信頼関係を結ぶことはできない。また、クライアントの同時接続は5台から最大25台に制限される。SQLサーバーはデータベースのサイズも1GBを超えられないといった制約がある。

BackOffice 2.5 と BackOffice SBS との違い

BackOffice 2.5	BackOffice Small Business Server
<b>共通コンポーネント</b>	
Windows NT Server 4.0	Windows NT Server 4.0
Internet Information Server	Internet Information Server
Index Server	Index Server
FrontPage 97	(FrontPage 97 に代わるもの)
Proxy Server 1.0	Proxy Server 1.0
Exchange Server 5.0	Exchange Server 5.0
SQL Server 6.5	SQL Server 6.5
<b>固有コンポーネント</b>	
SNA Server 3.0	Fax Server
System Management Server 1.2	Modem Sharing Server
	Internet Connection Wizard
	統合インストーラー
	クライアント環境とソフトウェアのインストーラー
	Web ベース管理ツール
	+ 5 クライアントアクセスライセンス
<b>クライアントアクセス制限数</b>	
無制限	25 クライアント
実売 ¥ 650,000 程度 (5 クライアントアクセスライセンス込み)	実売 ¥ 300,000 程度 ( 予想 )

このSBSは今までLANを組みたくてもそれができなかったようなユーザーの救世主になるのだろうか。日本語版の発売は来春までに予定されているという。今回は先行してテクニカルペータ版が配布された英語版をもとに検証をすすめていこう。

### 多機能なコンポーネント、簡単なセットアップ

SBSに含まれるコンポーネントは多岐にわたる。BackOffice 2.5と比較すると、ハイエンド向けのコンポーネントの代わりにSOHO向けのコンポーネントが付加されたものとなっており、これだけで最低限必要とされるものを満たすようなイントラネット環境がその日にできあがるという、きわめてインスタントなソリューションだ。

今すぐ必要かどうかは別にして、いったん運用しはじめたサーバーにあとから別のソフトウェアを追加するような煩雑な作業を回避するべく、典型的なイントラネットユーザーが典型的に必要なであろうソフトウェアをオールインワンにしたというイメージだ。

これだけの量のコンポーネントがあるのだから、何をどの順番でセットアップしていけばいいのかが手慣れたITマネージャーでもとまどうものだ。

SBSの統合インストーラーはこうした煩雑な作業を簡略化し、サーバーのセットアップなど初めてというような経験の浅い管理者にも容易にイントラネットを構築できるようにするものだ。

### イントラネットは、インターネットは？

SBSを導入した場合、ネットワークの構成としては1台の「ドメインコントローラ」を持ち、そこに数台から数十台のクライアントがぶらさがるNTドメインができる。

この結果、ファイルの共有、プリンターの共有といった基本的なネットワーク運用に加え、ProxyサーバーやFAXサーバー、モデムシェアを使った外部とのネットワーク接続が可能になる。

また、イントラ部分に関してはExchangeを使ったグループコンピューティングが実現され、情報の共有環境が完成する。

SBSを使って新規にシステムを構築するのであれば、低価格でセットアップが容易、なおかつすぐに使えるシステムを手に入れることができる。これはユーザーにとってみれば願ってもいいことだ。

が、SBSは前述のとおりその機能が限定されているためドメインの信頼関係が結べない。そのため、従来からある程度のNT

### BackOffice SBSの主なコンポーネント

#### Exchangeサーバー5.0

電子メール、パブリックフォルダーを使ったコミュニケーション機能を提供しグループウェアとして利用する。インターネットとのゲートウェイもこなすので、メッセージングに関してはすべてこのソフトだけで完結するはずだ。クライアントソフトウェアとしては、Outlook97を使う。ユーザー登録の際に作られるフロッピーディスクによってセットアップされたクライアントコンピュータには、自動的に環境設定されたOutlook97がインストールされる。

#### FAXサーバー

ビジネスでは電子メールもさることながら、まだまだFAXを利用する場面も多い。FAXサーバーは、NTサーバーマシンに接続されたFAXモデムを各クライアントが共有し、リモートコンピュータから効率よくFAX送信を行える。これはSBSのコンポーネントの1つである「モデムシェア」の機能によって実現されている。また、着信も可能で、各クライアントがその内容を表示確認することができる。Exchangeサーバーとの連携も可能だ。

#### Proxyサーバー

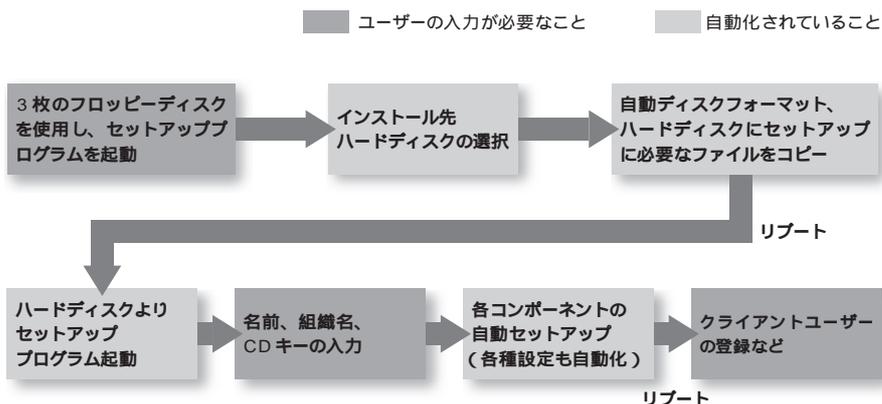
セキュリティ確保というよりも、各クライアントコンピュータからインターネットにアクセスするために使用する。複数ユーザーのインターネットへの同時アクセスや、参照したデータのキャッシングなどそのメリットは大きい。ダイアルアップ接続の場合はその効果も低いであろう。将来的にインターネットに専用線接続するような状況が発生したときには、さらに役立つことになるだろう。

#### インターネットコネクションウィザード

いくつかのプロバイダーに限定し、マイクロソフト社の提供する参照サーバーからオンラインサインアップをウィザード形式で実現する。詳細はまだ決まっていないようだが、非常に簡略化された形でプロバイダーと契約ができるようになるようだ。今回は英語版であったために検証することができなかった。日本で発売される場合には、ダイアルアップ接続だけでなく、OCNやODNといった専用線接続に対応できるようなものであってほしい。

### 「難しい設定は一切なし!」のセットアップ

すべてのコンポーネントは2枚のCD-ROMに収録され、3枚のフロッピーディスクを使ってインストールの作業を行う。これに際して担当者がしなければならないのは、ライセンスへの同意とCDキー、名前、会社名の入力のみで、インストーラーが自動的に必要事項の入力、さらにはインストールされているハードウェアを検出してくれるので、あとは画面の指示に従ってCD-ROMを入れ替えるだけだ。最後にクライアントコンピュータを使用するユーザーの登録を行うことを省けば、従来のBackOfficeとは比べものにならないほど簡略化されている。なお、インストールに際しては推奨システムとして、64Mバイト以上のメモリーを搭載しているかどうか、2Gバイト以上の空き容量があるかどうかまでインストーラーがチェックする。



ドメインによるシステム構築がなされている場合には、その追加システムとしての役割はまったく果たすことができない。またSBSで一度システムを構築し、さらにNTドメインを追加したい場合も同様である。この回避策としてアップグレードという方法も考えられているようではある。

また別の視点から見ると、インターネットが当たり前のこの時代に外からアクセスされることはさほど考えられてはいない。たとえば、ルーターを接続してOCNなどの専用線を使ってインターネットにつなぎ、外部からのアクセスを受けるような使い方をしようと思ったとたんに、SBSのカンタン運用の恩恵を受けていた管理者は途方にくれることになるかもしれない。

さらに、環境は整っても、それをどう運用し、コンテンツをどのように構成していくかを考えるのはユーザーにゆだねられる。Exchangeサーバーを使えば簡単な電子会議はたちどころにできるが、それをSQLサ

ーバーと組み合わせてダイナミックにデータを参照、更新するようなアプリケーションを構築するのは決して容易ではない。

従来のオフコンユーザーがお世辞にも能力が高いとはいえないハードウェアに払っていた高額な料金は、そのサポート料金に充当するものだった。そういう意味では、SBSはこれらのオフコンディナーが、顧客に対してコスト削減のためのソリューションとして提供するような製品として考えたほうがいいのかもかもしれない。

### 専門知識不要の管理ツール

サーバーは動き始めてしまえばほとんど手間はかからないが、やはり最低限の管理は必要だ。

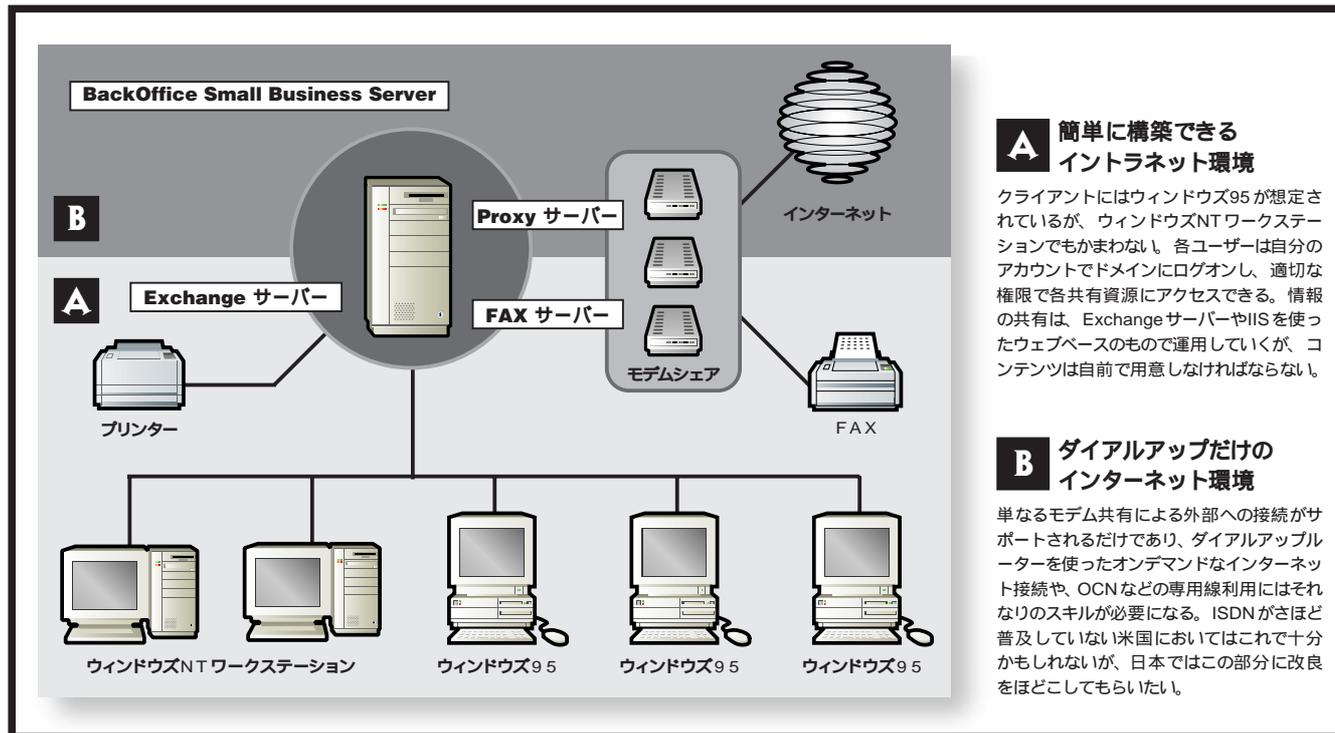
たとえば、新しいユーザーを追加するような単純な作業でも、そのユーザーのホームディレクトリーをどこにするか、どの共有資源にアクセスする権限を与えるか、電子

メールのアカウントはどうするかといった設定を加えなければならない。

SBSの管理ツールは、これらの煩雑な作業をウェブベースで容易に行えるようになるものだ。表示されている管理項目をクリックすればウィザードが起動し、必要な手順を順番にこなしていくことができる。すべてが対話的に行われるので個別のツールを順に起動するといった手間もかからない。

また、オンラインガイドが充実しているのも大きな特徴だ。NTサーバーではそのマニュアルは別売りで、しかも専門家にとっては詳細情報が不足し、専門外の人間には難解であるというきわめて中途半端なものだけに、ネットワーク運用に不可欠な知識をすべて1か所にまとめた統合ガイドをオンラインで参照できるのはありがたい。

管理者のシステム管理経験が浅いのだから、クライアントのマシンを使うユーザーはもっと知識のないことが予想される。そんなユーザーのために、サーバーからしかる



#### A 簡単に構築できる イントラネット環境

クライアントにはWindows95が想定されているが、WindowsNTワークステーションでもかまわない。各ユーザーは自分のアカウントでドメインにログオンし、適切な権限で各共有資源にアクセスできる。情報の共有は、ExchangeサーバーやIISを使ったウェブベースのもので運用していくが、コンテンツは自前で用意しなければならない。

#### B ダイアルアップだけの インターネット環境

単なるモデム共有による外部への接続がサポートされるだけであり、ダイアルアップルーターを使ったオンデマンドなインターネット接続や、OCNなどの専用線利用にはそれなりのスキルが必要になる。ISDNがさほど普及していない米国においてはこれで十分かもしれないが、日本ではこの部分に改良をほどこしてもらいたい。

べきアプリケーションをセットアップし、マシンをドメインにログオンするように設定するためのフロッピーディスクを作成する機能は、パニックに陥ったエンドユーザーからの問い合わせから日常業務もままならない管理者としての顔を持つ兼任ユーザーを解放するだろう。

とはいうものの、いったんSBSが想定していない環境を作ろうと思ったら最後、土台となっているのが正真正銘のウィンドウズNTサーバーだけに、深い知識が必要になる。それだけに、エンドユーザーが店頭で購入してその日から運用を始めるためのパッケージにはなりきれていないように感じる。

## 日本事情を考慮したローカライズに期待

今回は英語テクニカルベータ版をもとにそのファーストインプレッションとしてSBSの実体を検証してみたが、まだまだ早期ベータの段階であり、仕様はこれからかなり変わっていくものと思われる。米国と日本のインターネット事情も異なることから、日本語版の仕様もさらに変わるだろう。

SBSの土台となっているコンポーネントはすでにあるものばかりなので、それをどのように組み合わせていくかという提案と形態がすべてである。それが中途半端になってしまっただけはこの製品のアイデンティティがなくなってしまう。マイクロソフト社が今までのサーバーソフトウェアパッケージでなく、「ソリューション」としての戦略的製品を発表したことは興味深くとらえている。今後このあたりを中心に、日本語版の最終仕様が決定し次第、続報をお伝えすることにしたい。



管理ツール①：管理メニューから仕事を選ぶ

ユーザーの追加や削除、メールの管理、ディスク管理など日常システム管理者が行うことはウェブベースで統一された管理ツールのもとに行うことが可能である。これによって、管理者はどの管理ツールを起動するかに迷うことなく各種設定と登録ができる。



管理ツール②：ユーザーを管理する

例えばユーザー登録はウィザード形式で行われる。管理者は必要なことを順に入力していただくだけで、ユーザー登録だけでなくクライアントコンピュータのセットアップ用フロッピーディスクの作成や、メールのセットアップも行うことができる。



管理ツール③：オンラインガイドを読む

システム管理で戸惑った場合、マニュアルをひも解くのは面倒な作業である。オンラインマニュアルが充実していれば、それだけシステム管理者の負担も軽減されるだろう。SBSのオンラインガイドでは、マニュアル+設定ウィザードといった形をとっている。このため心許ない管理者も、安心して設定を行えるようになっている。欲を言えば、さらに詳細なガイドを載せるべきだろう。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)